

## 節子の部屋:女性の活躍バンザイ!!

○川上陽子さんが外務大臣になられた。輝かしいキャリアを持っている方ではあるが、何より法務大臣の時にオウム真理教の死刑執行にハンを押された方と覚えがある。すごく大変な決断であった事だと思う。先日テレビで、プリンケンさんと会話している姿は自信と責任感に満ちあふれ、日本人として誇りさえ感じる。すごい!!

○また、先日投稿された「女のきもち」を読んで・・・  
現在は74才の方ですが、67才まで塾講師をしていた。塾の閉鎖により、中3の生徒の希望もあり高校入試まで1年間家庭教師をされた。全員、希望校に送りだして講師生活を無事に終えた。最後に「働くとは単にお金を手にする手段ではなく、社会と繋がり家庭以外にも居場所がある素敵なお仕事である。何が幸福かは人により違うだろうが、幾つになっても人から必要とされることほど、幸せで生きがいを感じる事ではないかと痛感する」と記してあった。ウン・・・お茶を飲みながら何とも言いようのない涙が出た。良い一日の出発となった。感謝。

～お勧めの本～

石村由起子著 「あふれる日々をととのえる」  
自分の生活と重なり著者が同志に思える本でした。

理事 井上 節子

## マラソン・ウォーキング クラブ報告

### 【村岡ダブルフルマラソン&ウォーキング大会】

マラソン44キロ・ウォーキング27キロに参加しました。村岡の街中をスタートし、蘇武岳を目指します。他に小さなアップダウンを繰り返すため、ウォーキングで1000m以上、マラソンは2000m以上の高低差があり登山に近い印象でした。みんな無事に完走し、2個100円という破格の梨を買えたことがご褒美になりました(笑)。



### 【氷ノ山紅葉登山フェスティバル】

総距離12キロを8時間かけて歩いてきました。約300人が全国から参加しており、氷ノ山の人気の高さにビックリしました。登りはきつく足元も滑りやすいため、何度も心が折れそうになりましたが、奥田OTが頂上で肉を焼いてご馳走してくれたお陰で、心も体もリフレッシュし、楽しい1日となりました。

## 編集後記

観測史上最も暑い夏と言われた夏も終わり、すっかり朝晩が冷え込む季節となりました。カーサにある檜のどんぐりも茶色くなって落ちてきました。(リスが喜ぶでしょうね) 医院やカーサの周りには沢山の落葉樹があり、風が吹くと木の葉がはらはらと落ちて秋を感じます。そしてもちろん美味しい焼き芋を食べる時も! 短い秋が過ぎたら但馬の長い冬がやってきます。冬はコタツでみかん。そんなことでは体重がうなぎ上り・・・あぁウナギが食べたい。

ご希望の記事などがあれば、【Casa:田中】まで

医療法人社団 井上医院

〒667-0103兵庫県養父市浅野368-2

TEL:079-664-0051

<http://inoueclinic-yabu.or.jp>



# FELICE

## 2023.Vol2

## 特集:言語聴覚士とは

言語聴覚士:本西 亜矢子



## 今月の特集:言語聴覚士とは

言語聴覚士(ST)とは、「話す」「聞く」といったことばによるコミュニケーションや、嚥下(飲み込み)に困難を抱える方に対してリハビリテーションを行う専門職です。

ことば・コミュニケーションのリハビリ  
脳卒中などの病気や事故により脳に損傷を受けると、様々な言語障害を引き起こすことがあります。代表的なものとして、舌がもつれる、声が出せないなど、発音が上手く出来なくなる「構音障害」や、周りの人が話していることを理解出来なくなったり、自分が言いたいことを言えない、字の読み書きが難しくなるなどの症状がみられる「失語症」があります。口唇・舌の動かし方の指導や発声練習、絵カードを見せて名前を言ってもらったり、文字の読み書き練習など、1人ひとりの症状に合わせてリハビリを行っています。



嚥下(飲み込み)のリハビリ  
病気や加齢などにより、食べ物が上手く飲み込めないことを「嚥下障害」といいます。具体的には、食べ物が口からこぼれたりむせてしまったりするなどの状態を指し、誤嚥性肺炎や窒息を引き起こすこともあります。首や肩のストレッチ、口唇や舌の体操などを行い、嚥下に必要な筋力を鍛えます。また、安全に食事がとれる姿勢や食事形態の検討も行っています。



「コミュニケーションをとること」や「食べること」は、日常生活において必要不可欠なものです。ことばや嚥下に困難を抱える方が、より豊かな生活が送れるよう支援いたします。

言語聴覚士: 本西 亜矢子

## 井上医院介護支援室より:介護保険を使う時

私たちケアマネージャーは、目の前で起こっている困りごとの解決に向け、さらに、よりよい日常を送るために、ご利用者様と信頼関係を築きながら、お一人お一人との関わりを日々大切にしています。

「もう少し体力がいたら、もう少し歩けるようになったら、どのようなことをしたいですか?」「毎日をどのように過ごしたいですか?」

これまでの人生を振り返ると、どなたにもキラキラと輝いていた時、ご家族・地域のために精一杯頑張ってきた時が必ずあると思います。



私たちはご利用者様それぞれの「これから」を一緒に考えていくために、「これまで」(介護が必要な状態になる以前の生活の歴史や楽しみなど)のお話をご自宅でしっかりお聞きし、サービス事業所・医療・地域との架け橋的な存在になります。

いつもまでも「自分らしく、自立した、満足な人生」を慣れ親しんだわが家で可能な限り生活が続けられますよう一緒に相談をさせていただきます。



## 院長より①:外構の移ろい

外来棟は平成3年(1991年)10月に竣工し32年を迎えます。外構の木々も随分成長してきました。受診にお越しになる患者さまは駐車場からまづ受付にお越しになり、診察を終えられると会計を済まされ一直線で薬局に向かわれます。ゆっくりと樹木を観察して頂く時間もないかと思われます。

通所リハビリ“Casa”にお越しになるご利用者さまに於かれましては送迎の車中から一瞬ご覧いただくだけです。桜のシーズンには少し車速を落としてご覧いただいているようです。移ろいをご紹介します。

これは2009年10月竣工時の画像で植樹は殆どほとんどありませんでした。(写真下左)その後の記録が少し飛びますが、2007年には車寄せ周囲にはヤマボウシ、桜を植樹し、看板横にはもみの木を植えました。もみの木はのちにクリスマスツリーと活用します。木々の根元にはタイムの花が咲きます。(写真下右)



1999年の駐車場桜です。(写真下左)

その後桜も成長して2007年には大きくなりました(写真下右)



2023年6月、もみの木は2階の屋根を越えて成長しています。(写真左)

今年も、もみの木のイルミネーションをお楽しみ下さい。

(井上 正司)

